

学校教育目標
あいがいっぱい朝比奈小　～ ふれあい　学びあい　助けあい　～ ◎「未来は一人じゃ創れない」人や地域とつながり、未来へつなげる夢あふれる学校づくりを目指す。 【知】：○自ら学び続け、自分の考えを深める子を育てる 【徳】：○自分も友だちも大好きな、あたたかい子を育てる。 【体】：○心と体を鍛え、自分や人の命と体を大切にすることを育てる。 【公】：○友だちや地域のひとと力を合わせ、朝比奈を大切にすることを育てる。 【開】：○コミュニケーションや情報処理の力を高め、課題解決ができる子を育てる。

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
＜主体的・協働的に課題に向き合い解決する力＞ ○【より豊かな表現力】：生きる力としてのコミュニケーション能力を育む。学習の基盤となる言語能力・情報活用能力・英語能力の習得および活用 ○【自分を導き、周りも導く力】：LIM（リーダー・イン・ミー）による自分づくり、仲間づくり、集団づくり	＜主体的に課題に向き合い解決する力＞（より豊かな表現力） ＜自他を認める力＞

中期取組目標
○【四つのワーク】：チームワーク＆フットワーク＆ネットワーク＆ライフワークバランスを大切にした高信頼性組織を目指します。 ○【子どもファースト＆チーム対応】：を教職員の行動基準とし、エンゲージメントを生かした学校づくりに取り組みます。 ○【リーダー・イン・ミー（7つの習慣）】：の考え方を中心に置くことで、教職員や子ども達が同じ方向を向いて教育活動を進め、生き生きとした活気のある安心できる学校環境をつくります。 ・教職員や子ども達が自分の行動に責任をもち、役割を果たすことにより自己有用感を高められるようにします。 ・自ら課題を見出したり解決しようとしたりし、業務や学習に主体的・協働的に取り組めるようにします。 ・学校をよくするために自分ができることを探し、リーダーシップを発揮するリーダーシップ・スキルを高めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
個に応じた指導	①個の習熟度に応じた学習支援を特別教室等で実施する。「スペシャル算数」等 ②重点研究【情報・ICT】と関連させ、個の習熟度に合わせたタブレットの活用を推進する。板書の撮影や文章の入力等を有効に使用し学びの支援とする。 ③自主学習を推奨し、成果物の例示やコメントによる励ましを行うことで意欲を喚起する。
担当	学力向上部会

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
重点研究で取り組んできて4年目となる情報・ICTの活用において基本的な情報活用やタブレット操作が身についている。 家庭学習において取り組んでいる自主学習は、学年により成果はまちまちである。高学年は課題を自分で選択できることにより探求力が高まってきた一方、自分に合った課題を見いだすことができていないのも事実である。中学年では、児童保護者共に自主学習の方法に困惑している様子もある。その原因として、課題解決の手段を考える習慣が身に付いていないことが考えられる。	自ら課題を見出したり解決しようとしたりし、学習に主体的に取り組めるようにする。
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・全職員での特別支援教室の運営やT2での学習指導を行う。 ・育てたい力や自主学習について保護者との共通理解と連携に努める。 ・座席やグループは配慮の観点から教師が定める。 ・タブレット端末/ICT機器の活用により個の学びを保障する。 ・リーディングトラックー等の活用により本に親しむ環境整備を図る。 ・中学年以上の児童が家庭で自主学習に取り組む活動の推進。 ・期日や期限を定めたくえて、解決手段を児童に考えさせる学習活動の推進。 ・キャリアパスポートを用いての振り返り活動の充実。 ・話し合いを通して問題解決をする授業を積み重ねる。 ・自分の興味のあることを見つけて発信をしたり友達の話の聞いたりする機会をもつ。 ・教員の個別最適の学びに対する理解をより一層深め、児童一人一人が自分に合った学びの仕方を見つけていけるようにする。
下半期	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①「あおぞら活動」での異学年交流を通して、幅広い年齢層の人と関わることで、相手意識をもって会話したり、どんな態度で接すればよいかなどを考えたりすることができるようにする。②リーダー・イン・ミーを取り入れた学習計画や行事計画を行う。③人権週間・授業参観等を設定し、児童、保護者、教職員が一緒になって人権について考えるようにする。
担当	豊かな心部会

豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標
・自然が豊かで地域とのつながりも深いため、学習環境に恵まれている。子どもたちは、一生懸命に物事に取り組む。お礼や挨拶も進んでできる子どもも多い。 ・人とのかかわり方一方的な面がある。自分の想いのみを主張しがちな児童が多い。相手の立場になって物事を考えることが苦手な子どもが多い。自分自身を客観視できず、正しく自己評価できていない子どもも多い。 ・相手意識はあるが、思いやりをもって接することができない場面が多い。	学習や行事などの中で、リーダー・イン・ミーの考え方を取り入れていき、主体的に取り組む児童の育成をめざす
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・運動会、あおぞら活動（たてわり活動）、クラブ活動などの異学年交流を通して、互いの個性を認め、思いやる心や自他とのかかわり方を、リーダー・イン・ミーや道徳の学習を通して意識させる。 ・各活動を通して振り返りをし、キャリア教育として自分の成長を客観的に見つめられるようにする。また、振り返りを共有することにより、自分の見方を広げたり深めたりする機会とする。振り返りをもとに、次の自分のめあてを決められるようにする。 ・子ども同士で互いのよいところを伝え合う活動（ありがとうカード）を行い、相手の新たな一面や自分のよさを認識できるようにする。 ・キャリアパスポートを保護者とも共有し、学校と家庭が連携してよりよいキャリア教育につなげていけるようにする。
下半期	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①健康会議や保健委員会以外に、運動委員会とも連携し、安全衛生といううえで、活動の幅を広げ自主的・協働的に取り組める子の育成を図っていく。 ②年間を通し、運動を楽しむ児童を育むために計画的に取り組む必要がある。様々な運動を取り入れ、遊びを通して多様な動きを経験し、すすんで運動する児童の育成を目指す。
担当	健やかな体部会

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
・朝食や、基本的な生活習慣はできている児童が多い。 ・ハンカチ、ティッシュの携帯や手洗い、うがいの習慣化など、衛生管理の意識をさらに高めていく必要があると感じる。 ・運動面では、外遊びや体育の学習など、体を動かすことの好きな児童は多いように感じる。 ・学校の児童全体としては、運動の習慣化が十分でない面もある。	健康会議を通しての取り組みや体力アップ計画を通した、衛生意識の向上や運動習慣の定着。
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・子ども自らが考え行動するという主体性が発揮できるような方法を考える。 ・健康会議の実施。定期的な手洗い調査や、ハンカチ、ティッシュの確認など、子どもたちの衛生管理意識の高まる活動に取り組む。 ・子どもたちの手洗いの習慣化が促されるような工夫を考え、継続的に指導をしていく。 ・指導者が意識して、衛生や運動、食に関する指導を日常的にしてい。手紙や授業参観、懇談会の機会を通して保護者への啓発も図る。 ・休み時間に外遊びを促したり、係活動などを活用してみんなで外遊びをする機会をもつ。 ・担任などの教職員との個人面談を通して、子どもの心の状態を把握し、ケアをする。
下半期	